

本 攪 寺 杼 貝 (82), 2017

穿孔されたタカラガイ

久保田 信

Shin Kubota: A cowry shell pierced

〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町 459

京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所

タガヤサンミナシ *Conus textile* がクボガイ類などを襲い、歯舌からの毒で麻痺させた後に軟体部をすっかり吸い取る例や、イボニシ類がイガイ類の貝殻を穿孔して軟体部を食害する例など、軟体動物が軟体動物を摂食する例が多々知られる（鈴木, 2006; 久保田, 2015）。本報告では、タカラガイ類の貝殻が穿孔された希少例を記録する。

2015 年度に開催の当同好会の集まりで、会長の田中眞人氏より配給されたフィリピン近海産貝殻の中から、タカラガイ類の貝殻を 13 個頂いた。それらは全て死貝で付着生物が見られるなど新鮮でなく、よく洗浄しても同定は困難であった。しかし、その中の最大個体であったコモンダカラ *Erosaria aerea* と推察される成貝の貝殻腹側に、丸く貫通した 2 個の穿孔が見られた（図 1）。

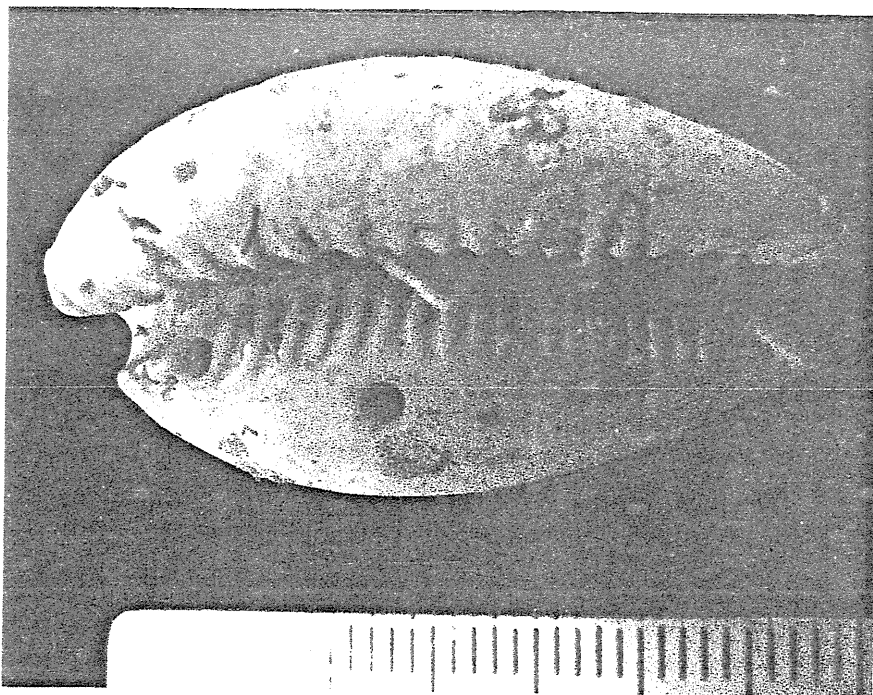


図 1. 穿孔された?コモンダカラ成貝（フィリピン近海産）.

筆者の半世紀以上にわたる貝類観察の中、タカラガイ類が穿孔された例に、今回、初遭遇した。ツメタガイ類が二枚貝類の貝殻を穿孔し食害する例は周知されているが、上記のタカラガイには何が穿孔したのだろうか？（参考：鈴木, 2006）。

参考文献

- 久保田信．2015．和歌山県白浜町に所在する京都大学瀬戸臨海実験所"北浜"へ2回の台風時に打ち上げられたウミギク(軟体動物, ウミギク科)貝殻の穿孔について漂着物学会誌, 13: 59-60.
- 鈴木明彦．2006．北海道石狩湾沿岸の漂着物に見られる生物浸食．漂着物学会誌, 4: 1-7.